令和８年度　第６回行政評価委員会　会議録

日　時：令和８年10月14日（水）18時25分～19時30分
場　所：伊予市庁舎４階大会議室
出席者：倉澤生雄委員長、山邊彰三副委員長、牧本公明委員、日野功委員、
　　上岡宏美委員、武内和治委員
事務局：企画振興部企画政策課（向井功・松田・向井英・丸橋）
傍聴者：なし

１　開会

会議の成立を確認した。

２　議事

（１）第５回会議録の確認

第５回委員会では、学校教育課所管の「特別支援教育事業」を含む３つの事業を審議した。

会議録については、各委員において発言内容等に誤りがないか確認を行った後、伊予市ホームページへ掲載する。

（２）外部評価結果の確認

（３）本委員会に対する提案、意見等

（４）次回の委員会日程

（５）その他

３　閉会

（２）外部評価の結果

（事務局）

事前に配布した「令和８年度行政評価　外部評価結果（案）」をご覧いただきたい。前回委員会までに、外部評価を行った12件の事務事業の概要、そして、各委員の主な発言を要約して記載している。本日確認いただいた後、体裁を整え、市長への答申としたい。

外部評価結果の確認の進め方は、12事業を半分毎で区切って、そのまとまりで確認及び発言いただく形としたいがよろしいか。

〔意見なし〕

P1の関係人口創出事業からP11の地域公共交通事業の6事業を読み上げる。

お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

（委員）

2ページの記載に関して、郷土愛とシビックプライドの違いについての表現がやんわりしすぎているため、明確に区別した表現で意見した。

（事務局）

修正する。

（委員）

4ページの「集中から分散へ」という外部評価の意見や「新しいシステムの導入」に関する記載について、議論に至る背景や流れが欠けており、初見の読者には伝わりにくい。

（事務局）

修正する。

（委員）

8ページのサウンディング調査の実施について、マネジメントシート上では記載されていない部分であるが、掲載を行っていくのか。

（事務局）

削除する。担当課の説明や会議録から抽出した文章が、シート上で唐突に記載されている箇所があるため、本日の会議終了後に全体的な内容や会議録との整合性を再度確認・調整する。

（委員）

答申内には、「現状維持を妥当とする」という意見や「ゼロベースで廃止も検討すべきだ」という意見など、各委員の意見がそれぞれに記載されており、全体として意見が分かれているように見受けられる。現時点においては、このように多様な意見が混在している状態で問題ないか。

（事務局）
　行政評価委員会において、意見を一つの答えに絞るものではないということは、昨年度の説明でも触れている。そのため、各委員の多様な意見が存在することが分かるような形として、問題はないと考えている。

〔その他の指摘、追加意見なし。〕

P13の精神保健事業からP23のふたみシーサイド公園管理運営事業までの6事業を読み上げる。
　お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。
（委員）
　22ページの「子供から高齢者まで」によって、「専門職への負担集中を防ぐ」ことができるのではないかということで、「専門職への負担集中を防ぐ」を文末としてはどうか。
（事務局）
　修正する。
（委員）
　24ページの「指定管理者制度」を「指定管理者」に変更が必要。
（事務局）
　修正する。
（委員）
　20ページの「ロジックモデルの仕組みを見直す」を「ロジックモデルに基づいて評価を見直す」ではないか。
（事務局）
　修正する。
（委員）
　同じページの「記載された課題と評価の矛盾点」という表現について、何がどう矛盾しているのかをもう少し丁寧に記載する必要がある。自己判定の評価が「SSS」と高い一方で、2次判定などでは多くの課題が指摘されているという矛盾点についての記載である。初めてこの表を見る人にも、指摘されている矛盾の内容が正確に伝わるような表現に改善していただきたい。
（事務局）
　修正する。

〔その他の指摘、追加意見なし。〕

（事務局）
　以上で、外部評価を行った12件の確認が終了した。
　本日の確認資料について、御指摘の点は修正を施し、改めて提示する。その際、お気づきの点があれば、事務局までお知らせいただきたい。

（３）本委員会に対する提案、意見等
（事務局）
　第10期2年目の外部評価をとおしての意見・感想など、各委員から発言いただきたい。
（委員）
　マネジメントシートは、活動指標や成果・結果といった「物事の価値を決める物差し」がきちんと書かれており、非常に良くできている。
　一方で、委員から多様な意見が出る背景には、担当者が日頃から成果や指標について十分に検証・ディスカッションを行えていない可能性がある。
　外部評価委員会のあり方として、生成AIを活用して成果や指標の妥当性を判断させることで、委員会が必要なくなるのではないか。
　委員会開催時の時間外に庁内で多くの職員が残業している様子が見受けられた。マネジメントシート作成等の負担は理解できるが、業務効率化やワークライフバランスの観点から、不要な残業などを減らし、仕事後の生活も充実させられる環境づくりを期待したい。
（委員）
　マネジメントシートは伊予市にとっての「財産」であり、単に積み上げるだけでなく、ブラッシュアップして今後の行政運営に活かすサイクル（PDCA）を回すことが重要である。
　過去のシートの指摘事項と現在の行政運営を照らし合わせる振り返りの機会を設けることで、長時間をかけて議論する委員会の意義が最大化される。財産をより利活用できる形にしてほしい。
　指定管理者が関わる事業については行政の対応に限界があるという議論がなされるため、当該事業が行政評価委員会にかかる際、指定管理者の担当事業者へ出席を案内することを検討してもよいのではないか。現状では「指定管理者と連携を密にする」といった表現に終始しがちであるが、指定管理者が出席することによって、委員から示される事業の課題や市民の生の声を、指定管理者の側により身近な形で聞いていただける機会を提供できるのではないか。
（委員）

シートを作成・説明する背後で、市役所職員が非常に多くの時間を割いていることに感謝を申し上げる。

事業の継続や成果について、シート上で良い数字や無難な見せ方をする必要はなく、課題がある部分は正直に記載し、職員体制への指導や改善につなげてほしい。

(委員)

市民は日々の生活で精一杯であり、行政がどのような流れで動いているのか十分に分かっていない現状がある。

市職員が非常に頑張っていることを多くの市民が知れば、協力の輪も広がる。委員会で学んだことを周囲に伝えていきたい。

(委員)

何十年もこうした委員会を継続している自治体は数少なく、形骸化を防ぐ上で市の内部職員の意識向上に大いに役立っている。

一方で、「マネジメントシートの評価と実態の不一致」が気になるところである。現場の担当者だけでなく、1次・2次判定を行う課長や部長などの管理職が、本当にシートや成果指標を真剣に確認しているかどうかが疑問である。現場の担当者の研修教育よりも、不適切な成果指標や矛盾点がスルーされている現状があるため、管理職のチェック体制や、全庁を横断して部門間のバラつきを統括・チェックする仕組みを検討すべきではないか。

(委員)

本来は半年に1回など定期的に内部で見直し、成果指標の妥当性を検証することが望ましい。

しかし、実際には日々の業務に追われて年度末になり「これを行っていたか」と振り返る状況になりがちである。せっかく作成したシートであるため、内部で積極的に活用し、指標の実現可能性や数値の妥当性に気づくことが重要である。

共に仕事を進める仲間内では、自分たちの事業に対して「すべてダメ」とは言いにくい空気があり、評価点数と評価が合っていないと感じた。実際によくない部分については素直に「よくない」と記載した評価を行ってほしい。

(4)次回の日程

(事務局)

日程の前に、今後の予定について簡単に説明する。本日の委員会での意見を取りまとめ、事務局で答申案を作成する。それをもって、委員各位に最終確認を行い、市長への答申とする。

答申を踏まえ、市長、副市長、教育長、部長級職員による経営者会議におい

て、最終判断を行い、議会への報告及び市民への公表を行うこととする。

　次回の委員会では、先程説明した最終結果を報告させていただく。現時点では来年の２月17日を予定しているので、案内させていただく。

（５）その他

〔なし。〕